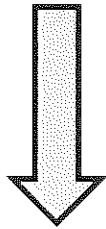


墨田区におけるプラットフォーム

【定 義】

プラットフォームは特定の生活課題に関係する人や多様なグループが集まる共通の場であり、新たなネットワークを形成し、問題発見や課題解決などを図ろうとする試みです。

ここでいう「場」は、必ずしも物理的な場を意味するものではありません。インターネット上における場でもかまいません。要は、課題解決に関連した魅力的なメンバーの参加を得ることが大切であり、それによりプラットフォームは魅力的なものになるということです。



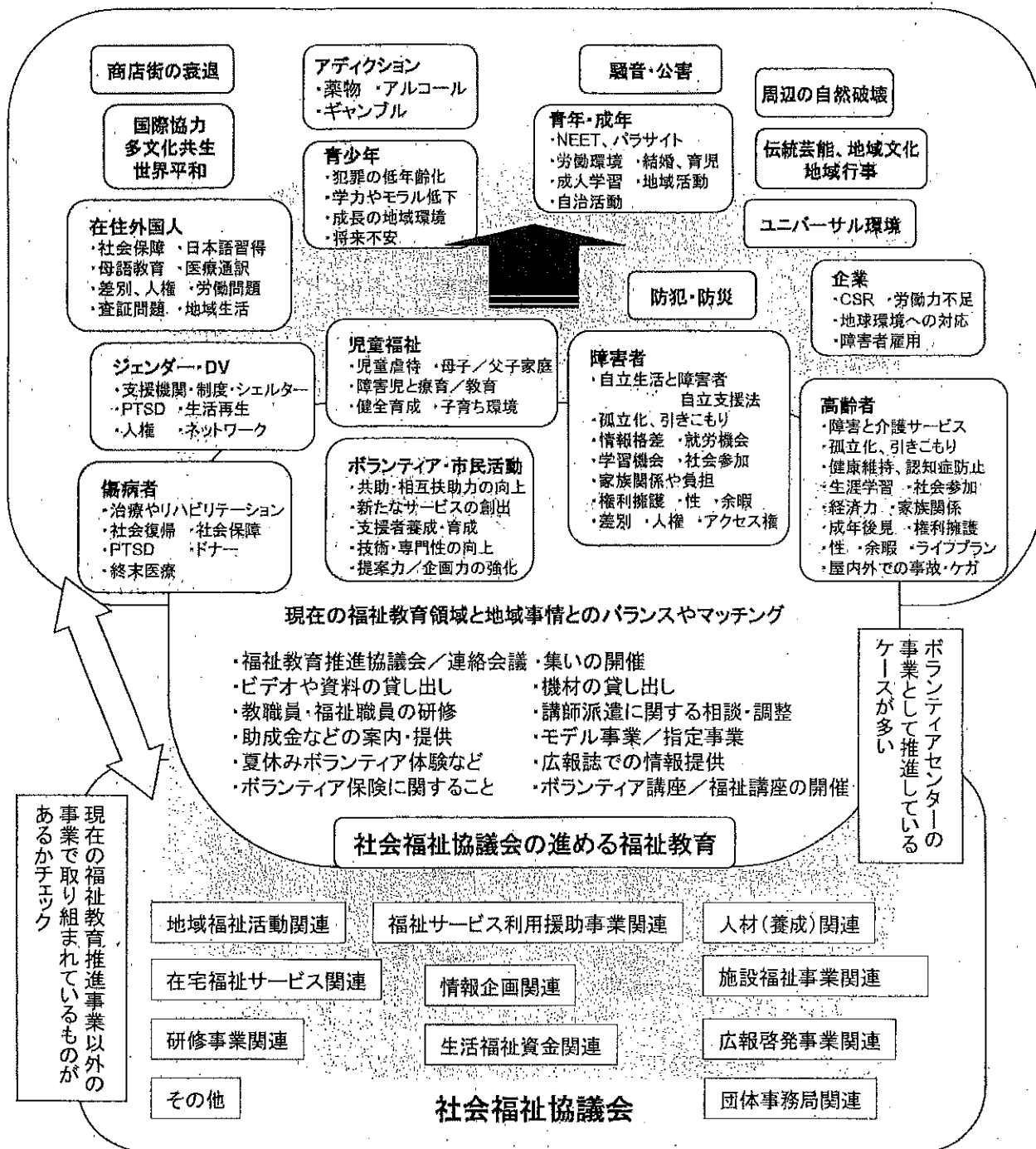
現状でも様々な種類のプラットフォームがありますが、
 類型別に分けた場合は下記の3種類となります。

【プラットフォームの具体例・類型】

類型	問題発見プラットフォーム	連携支援プラットフォーム	問題解決プラットフォーム
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の主体的な関わりのなかで、地域の潜在化した生活問題を把握することができる。 ・顔見知りになることや集まるなど交流を目的とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民による支援活動の相互連携や連絡調整が行われる。 ・集まりが日常化し、運営が組織的に住民主導で行われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政組織、福祉施設などの専門職が関わり、組織同士が既成の活動を越えて問題解決を行うもの。
	インフォーマルなプラットフォーム		フォーマルなプラットフォーム
具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・お祭り ・ふれあいサロン 	<ul style="list-style-type: none"> ・小地域福祉活動 ・ボランティア・NPO等の連絡会 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りネットワーク会議 ・要保護児童対策地域協議会

※詳細については、「第三次墨田区地域福祉計画（後期）」32ページに記載があります。

地域内に存在する生活課題例

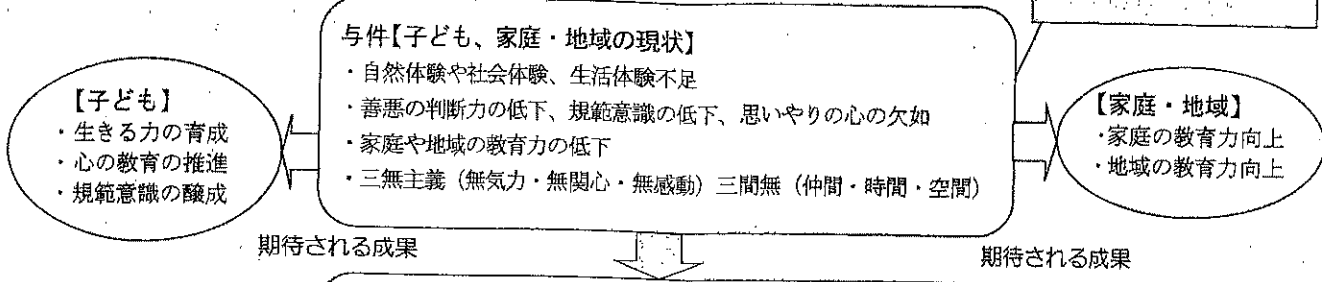


プラットフォームによる福祉教育推進イメージ例

「ふるさと学習推進事業」による福祉教育

■学習主体：小・中学校（児童・生徒）

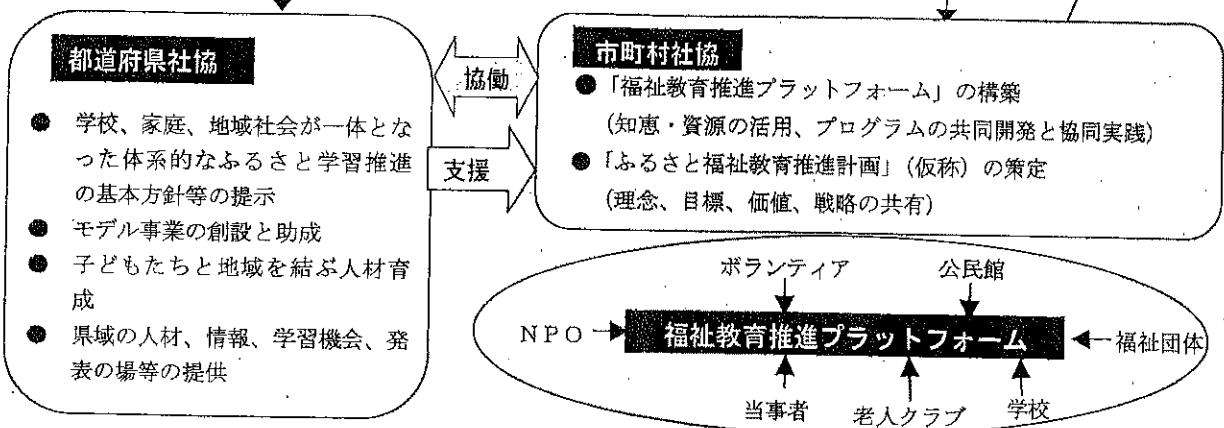
事前のマーケティングにより現状を把握



【ねらい】
 地域を知り、地域に愛着と誇りを持ち、地域へ貢献する活動を通し、社会の一員としての自覚と市民性を育み、人権尊重を基盤としたふるさとの福祉づくりの構築をめざす

【学習の視点】 問題解決型学習 地域還元型学習 協同参画型学習

各段階の成果目標を設定



ふるさと学習は、10代の青少年が自身の生活する地域について、その歴史や文化などの側面とともに地域の暮らしの現状について、地域の人びとから直接その状況や課題などについて学び、ともに解決方法を考えていくものです。多感な時期に地域の暮らしの現実を調査し、また課題解決に大人や当事者などとともに参画することは、将来の市民としての青少年の生き方や考え方に少なからず影響を及ぼすことが期待されます。また、子どもを通して、親にとってもまた地域課題に気づいたり関心をもつ機会となり、地域福祉推進に多大な貢献をすることになります。

